

中学生徒会の活性化の取り組み

ー予算の再審議や高校自治会との共同企画を例にー

筑波大学附属駒場中・高等学校 生徒部

市川 道和・入江 友生・登坂 太樹
八宮 孝夫・平田 知之・吉田 俊弘
根本 節子

中学生徒会の活性化の取り組み

—予算の再審議や高校自治会との共同企画を例に—

筑波大学附属駒場中・高等学校 生徒部

市川 道和・入江 友生・登坂 太樹
八宮 孝夫・平田 知之・吉田 俊弘
根本 節子

要約

本校は、各種の行事が盛んで、それを運営する各行事の生徒たちの委員会活動も活発である。ところが、生徒会・自治会の役員の活動は、優秀なメンバーが揃っているにもかかわらず、決して活発とはいえない状況にあった。新入生オリエンテーション、予算案作成が終わると決算報告まで開店休業の有様であった。しかし、近年、高校自治会では自治会主催の講演会を催すなど自治会活動の活性化の動きが出てきた。中学生徒会でも、予算の再審議をきっかけに、活動の機運が高まってきた。本稿では、予算の再審議と高校自治会との連携によって中学生徒会の活動も活性化しつつある過程を報告する。

1. はじめに

本校は、中学校各学年3クラス、高等学校各学年4クラスの男子校である。スーパーサイエンス・ハイスクールに指定されるなど学業面にも力を入れているが、音楽祭・体育祭・文化祭などの学校行事も大変盛んである。それぞれの行事にはクラス選出の実行委員があり、生徒の手によって自主的に運営されている。この組織とは別に、予算案を作成したり生徒の代表として機能する中学生徒会、高校自治会がある。しかし、年度始めの予算案作成と年度末の決算を除くと、その中間は文化祭などの行事に絡むこともなく、開店休業の状態が続いていた—相当優秀な人材が集まっているにもかかわらず、である。これは、ただ本校のみの問題でないことは、昨年度「全附属高等学校部会研究大会」生徒指導部会でも同様の意見が聞かれたことから明らかである。

本稿では、今年度行った「生徒会活動の活性化」が何らかの形で生徒会役員のリーダーシップを育成するのに貢献したかを報告したい。

2. 昨年度末の生徒会役員選挙

中学生徒会の役員選挙は学年末にあり、中1、中2から役員が選出され、新学年になり新中2、中3のメンバーで運営することになる。本校の場合、立候補による選出は会長、副会長（2名）、議長、副議長のみで、執行部（会計、書記）はその後会長が依頼し、総会で承認されるというシステムである。

さて、昨年度末は、旧役員で副会長や執行部を担っていた生徒が立候補する、という予想であったが、ふたを開けてみると、立候補が出ているのは会長、議長がそれぞれ2名のみで、その他はゼロという状態であった。生徒会会則では、立候補の出ていない役職には、中1、中2各クラスから立候補者を推薦する、ということになっている。結局すでに立候補している会長・議長候補を含め、総勢13名の立候補となった。数は出たものの、推薦による立候補の場合は、自らの意思でないため、公約などもただ受けを狙っただけのものという場合がありうる。また、実際に本部役員の業務にかかわった経験がないので、まじめに書いたものでも現実と乖離しすぎている場合もある。しかし、今回の立候補者に限れば、推薦

された候補もなかなか意欲的な公約をし、立会演説会も盛り上がった。

ただ、2名の会長候補の演説は、やや対照的であった。1名は現副会長で、本部役員の仕事もある程度心得ているので、それを踏まえた現実的な公約をした。もう一方の候補者は、現行体制への漠然とした不満、評議会を面白くする、といったあまり具体的でない公約であった。ただし、一般生徒は現行批判などにえてして惹かれる傾向にあり、今回も集団心理がどのように作用するかという危惧があった。投票の結果は、果たして同学年内では、現行批判の立候補者が票を集めた。中1生は基本的にまじめな態度の立候補者を支持するので現副会長に多く票を投じた。卒業間近の中3生の判断はどうだったか？これが、圧倒的に現副会長を支持したのである。卒業間近の3年生などは、あまり立会演説などに興味を示さず、投票もいい加減になる場合もあるが、今回は非常に冷静な判断をしたことになる。

かくして、クラス推薦の多かった選挙とはいえ、責任感のある生徒が役員として選出された。また、執行部として、選挙に敗れた候補が数名就任した。他校の状況はわからないが、本校では選挙で敗れた生徒が、そこで終わらずに執行部などで返り咲くことがしばしば見られる。一昨年も会長候補として敗れた生徒が会計を担当し、非常にてきぱきとその任を果たしていた。

3. 新体制となつて：

新入生オリエンテーションと予算折衝

3月から4月にかけての新本部役員の仕事はまことに忙しい。まず、旧役員からの引継ぎをし、4月の新入生オリエンテーションの準備を始める。これは、各部活動から部活紹介を一括してまとめ、冊子にして新入生のオリエンテーションの参考資料にするというものである。本来は部活動の紹介ばかりでなく、生徒会組織の紹介も兼ねたオリエンテーションであるのだが、現行では生徒手帳など参照させて口頭で短時間説明するにとどまっている。高校の自治会ではビデオでその活動を紹介する場合もあり、まだまだ改善の余地のある行事である。

もう1つの役割は、予算案折衝および予算案作成である。こちらでも学年末休暇に入る前に書く部活動に予算希望用紙を配布し、始業式で回収し、また各委員会の委員が決定後そちらの予算案も考慮して、大まかな予算案、方針を立てる。その後、参考資料1のような

予算折衝日程を配布し、放課後1週間ほどかけて本部役員2名、各部活動の代表2名で折衝を行う。なお、折衝の様子はテーブルに取り、その模様の概略を書き起こしたもの（参考資料2）が総会の際に資料として添付される。折衝後正式な予算案を作成し、各クラスおよび委員会代表、クラブ代表などの出席する評議会で一旦質疑がなされ承認後、生徒総会で最終的な承認が諮られる。

今年度は、昨年度に比べると予算が縮小の傾向にあり、本部役員も折衝での削減に向けて案を練っていた。なまじやる気のある役員がそろって削減に励んだ結果、大会などでそれなりの成果を出した部活動も含め一律削減してしまった。また、折衝の日により削減の率も変わってしまい、最終日の調整などもなかったため、部活動によって削減がアンバランスになってしまった。請求物品によっては、2年分割などの制度を採って、今年度は半額認める、という措置もとってきたが、これは原則として高額な物品に対してとられる措置だった。ところが、今回の場合は分割する必要のない小額の物品でも分割された例もあり煩雑な印象を与えた。一方で、高額な楽器の修理などが分割されていないという状態だった。顧問である筆者も、出来上がった予算案についていくつかの疑問点を出したが、最終的には、総会での説明可能ならば、ということで認めてしまった。本部役員は、昨年度も何も質問もなく総会で予算案が通ったことで少し甘く捉えていたところがあった— 実際、予算折衝で各部の代表には一応納得してもらっており、評議会でも質問はなく、また生徒総会で特定の部活の団体などから反対意見が出てても生徒全体からすると、まず承認の方向で、これまでもほとんど否決の例はなかったのだ。

ところが、これが判断の誤りであった。生徒総会の当日、体育館の放送設備設置の遅れも手伝って、一般生徒はいつもより予算の資料を読む時間も長かったためか、質疑応答の時間が来るや次から次へと質問が出た。いくつかの質問は事前に危惧していたものであった。減額の基準が明確にしませなかったこと、ほとんどの部活が減額の中、生徒会役員の属しているある特定の部活の予算だけ増額になっていたことなど、納得させるに足るだけの説明がなされなかった。そして、採決。134票対209票という大差で予算案は否決されたのである。もちろん、本部役員には徒労感もあったが、あまりの大差に返ってすっきりしたというか、予算案に対する一般生徒の

関心の高さを再認識して、再度やり直そうという意識が高まったように思う。

4. 予算再折衝

再折衝と言うものの、日程的にはかなりきつかった。本校では連休後、5月の中ごろには校外学習として、親睦を兼ねた1週間程度の旅行が控えている。その直前の1週間で折衝をし、校外学習ご予算案を完成し、5月末のHRを利用して生徒総会を設けるしかなかった。

顧問としては、とにかくもう1度予算案作成の原則をはっきりさせること、前年度の予算請求と実際の残金などを考慮すること、2年分割は高額の商品に限ること、試合などの成績を考慮することなどのアドバイスを与えた。また、折衝に使用していた生徒会役員室は、音楽同好会の練習場所のすぐそばにあり、騒々しくもあるので、もっと落ち着いて2対2で折衝できる小部屋を設定した（防音のスタジオで中仕切りがあり、外から折衝の様子が見える部屋）。

今回は、ただ削減、と考えず各部活で何がもっとも必要か。妥協できる点は何かを折衝させた。また、前回例外的に増額していた部活にも削減することを確認した。折衝するほうも、だいぶ慣れてきたせいもあり、膠着した場合はいつまでも折衝しないで切り上げ、役員会に持ち帰り、話し合って再度折衝をした。それにより、折衝する2名の判断だけでなく役員会全体の意思確認ができた。また、折衝後は生徒会役員のホームページにアップし、現在までの暫定予算案と、折衝での実際の予算案がどのくらいずれがあるかなどを絶えず確認できることになった。

また、もうひとつ特筆すべきは、前回は折衝の様子をテープに取っていたのをコンピューターでデジタル化し、生徒会のHPにアクセスしパスワードを入れれば、折衝の様子が聞けることになったのである。これは会計担当の生徒が、選挙では敗れたが公約としていた、折衝の様子などをもっとオープンにする、ということを実現化したもので、実際アクセスした一般生徒は少なかったようだが、公約を守ろうとした態度は立派であった。

5月末、いよいよ再審議のときが来た。今度は予算の要点もはっきりしており、質問も出なかった。そして、289票対52票という圧倒的な票数で予算案は承認されたのである。

5. 再審議を終えてからの生徒会役員の感想

再審議を終えての役員からの感想をいくつかあげる：

「4月半ばの予算折衝では、昨年・一昨年の予算額を調べ、おおよその目標額を設定して臨んだものの、いざ折衝となると、相手の押しが強かったということもあるのだろうが、目標額を上回るケースが多々あった。また、部同士を公平にすることよりも繰越金を減らさないようにすることを優先してしまったように思う。また、役員の間での認識の違いがあったことは否めない。たとえば、部費の位置づけについて、部費は予算を補うものなのか、予算が部費を補うのか、ということだ。（もちろん、前者だと思うが）どのように折衝に臨むか、集まりを浴するなどしてもう少し多く時間をとって話し合うべきだった。

折衝を終え、音楽部との折衝に「負けて」音楽部が極端に多く、サッカー部が極端に少ないということになってしまった。違和感は大いにあった。今から考えればもう一度折衝をしなおせばよいのだが、それが制度的に無理なのではないかと思ってしまい、やらなかったのが残念である。（中略）

そして5月、もう一度予算作成をすることとなった。部員数と実績に基づいて決めるという基本方針が変わりがなかったが、もう一度きちんとした目標額を立てた。昨年だけが以上に多いというケースもあり、そのような場合の見落としなどを修正し、二度目の折衝をすることとなった。

二度目の折衝は、生徒会役員が部の代表として出席するなどといった問題点が修正され、記録もPCデータとしてしっかりとっておいたので、問題はなく、評価できるものとなった。これは一度目の反省が生きた結果だと思う。文字に書き起こすという作業を、2名から5名に増やしたのはよかったと思う。作業時間も少なくなった。（中略）

今年は予算が一度否決されるという異例の事態を招いてしまったわけだが、大きな原因としては2つ考えられ、ひとつは折衝の際に弱気になり思うように削れなかったこと、もうひとつはそのような折衝の後やり直すことができないと思ってやらなかったこと、である。このような経験は、苦い経験であるが、今後会計の業務をやる時、あるいはそれ以外の場面でも、役に立つだろうと思う。また、来年以降これを反面教師としてきちんとした予算作りが行わ

れば、今年の予算案否決が無駄にならないであろう」(会長)

「1回目の予算折衝のときは、とにかく「各部の予算を削るだけ削って、繰越金を増やそう」ということだけを考えていました。(中略)評議会や総会での質問への対策をそれなりにしたつもりですが、質問は思いのほか多様でこちらの対応が困惑してしまったという印象があります。特に生徒会役員の間で意見が統一されてなかったのが最大の原因のように思います。(中略)

評議会や総会への準備も前回に比べてしっかり望めたと思います。2回の審議は確かに大変でしたが、「何となくこんな感じでいいか」で済ませてしまうのではなく、しっかりと理屈の上に成り立った予算案を作成しないと否決されてしまうという教訓になったと思います。来年以降もちゃんと全体的に見て皆が納得できるような予算案を作ってほしいと思います。」(3年生執行部役員)

予算折衝には直接かかわっていない2年生の役員にも、感想を求めてみた:

「1回目は、2年生は関わらないということもあり、完全に3年生に任せているという感じだった。方針を決める会議にも、重要な部会があったため、出なかった。そのため、否決された後の2回目の作成に関しては1回目よりも「関わった」感じがした。方針を決める会議に出て初めて、予算案作成の大変さを認識させられた気がした。

上記のことだけに関しても、僕にとって、予算作成が2回あったことは有意義だった。正直、総会においてもよほどひどくはない限りスルーできると甘く見ていた。みんながここまでよく見ているとはまったく思いもしなかった。(中略)

しかし、折衝に2年生が関わるべきかどうかというところではないと思う。2年生ではまだわからないことが多すぎる。まだ「予算」ということを入学したての総会でしか経験していないわけだし… また折衝が2年(生徒会)対3年(部)というのもどうかと思う。とても重要なことだから経験、知識が必要だ。ただ、2年生の役員にも情報を浸透させるということは必要だ。作成には関わっていないにしても、一応生徒会の役員であるわけだから、意見を求めたりするのは悪くない。むしろそうすべきだろう。つまり、折衝は3年が行うが、作成に関しては2年にも手伝ってほしいところ」(2年生副会長)

「予算を作るにあたって、中2はあまり関わること

がなかった。しかし、折衝はあくまで中3のみがやるべきだと思う。部活の運営に何らかの形で関わる中3は生徒会側でも相手を理解して折衝できると思うが、中2で部活を運営する人はほとんどいないから、部活でどのような予算が必要化の見通しがつきにくいから、中2は出るべきでないと思う。

否決されたことは少し驚いた。特に中1が反対票を多く投じていたところである。質疑応答だけでこれはよくない途中1が判断できたのは、質疑応答が正當にきちんと行われていたからだと思う。この点はよい要素として受け取ってよいと思う。」(2年生執行部役員)

6 予算折衝後の活動

6.1 「生徒会通信」の発行

例年は、予算案の可決後に活動が冬眠状態になるのが常であった。1つには、6月7月は中2、中3ともに校外学習の事後報告・プレゼンテーションが控えており、生徒会役員もそちらの方に時間を取られる、ということがあるためだ。また、体育祭や文化祭でクラスの中心的役割をするものもあり、結局決算の時期まで特に活動はせず、ということになってしまうのだった。

今年は、早くから、予算案以降何をしようかという事を考えてきており、また公約にしていた役員もあった。高校自治会では既によってきたことだったが、「生徒会通信」の発行である。一般生徒との連絡の役割を果たすこの「通信」は、しかし、当然のことながらそこに載せる内容がなければならない。

役員が始めに計画したのは、教育実習生のプロフィールを載せて、一般生徒と実習生との交流を促進しようというのが目的だ。ただ、プロフィールを載せるのではなく、参考資料3に示したようなアンケート形式を取り入れ各実習生に記入してもらい、アンケートとプロフィールを載せた「生徒会通信」を作成した。また、近隣の中学校と行っている中学生徒会懇談会の議論の内容なども掲載した。一般生徒の具体的反応は確認していないが、自分のクラスを担当している実習生のもならずそれ以外の実習生のプロフィールもわかり、メッセージもあることから、かなりの情報になっていることは確かである。

6.2 外交官との交流

「生徒会通信」の発行と前後して、非営利団体であるジャパン・リターン・プログラム(JRP)から、外交官との交流会を開きたいが、生徒の代表を募ってほしいという依頼があった。このJRPというのは、海外

から日本語の研修に来た外交官の卵などが本国に帰ってから日本語を忘れないよう再度教育する支援をする団体である。今回は上記のような依頼があり、当日の流れは参考資料4のとおりである。当初、高校自治会を中心に生徒を募る予定であったが、中学生徒会のほうが人数もいるということで、中高の自治会・生徒会が協力して行うことになった。

本校は、中高一貫校であり、中学生徒会と高校自治会の部屋は隣り合っているのだが、不思議なことにこれまで交流がなかった。考えてみると、両者の主たる役割は、それぞれの予算案を作成し、また決算をすることであったので、協力して何か行うという場がなかったのだ。ところが、今回の依頼で事情は一変した。訪問する外交官は6名。このそれぞれに対して、生徒側から各5名程度が当たり、それぞれグループとなって討論するのだ。また、外交官が用意したプレゼンテーションを聞いて質疑応答するというコーナーもある。中学生だけ、高校生だけのグループが出来ないようそれぞれのメンバーが組むように工夫し、また、外交官への質問も両者が協力して考えた。飾り付けや当日の司会をどうするかなども検討した(参考資料5)。

7. まとめ

本稿では中学生徒会の活性化ということの一端を紹介した。生徒自身の工夫で活性化できる部分もあるが、高校自治会との協力や、校外の団体との交流を通じて結果として活動が活性化するということがわかった。とりわけ、同じ校内にありながら、これまでつながりのなかった高校自治会の存在は大きい。

本校全体としても、現在「リーダー育成のカリキュラム研究」に取り組んでおり、この中には既成の顕在的なカリキュラム以外に、学校行事や広く校風といった、いわば“School Culture”とでもいうような、ヒドゥン・カリキュラムの研究も含まれている。文化祭や体育祭でも、相当伝統的に築き上げられてきた、さまざまな工夫がなされていることがわかった一方で、現役として在校している6学年の内でのタテの関係は意外と希薄なことがわかり、意識的に、異学年同士の交流を進めているところである。中学生徒会と高校自治会の協力も、このような動きに合致するところがある。

もちろん、他校、他団体との交流も同様に活性化のためには重要なものである。高校自治会では、一昨年卒業者を中心に学校に招聘し、講演会を開催している。可能ならば、中学生徒会も、このようなプロジェ

クトに参加し、開催できればと考えている(中学生対象のスピーカーは、高校とはまた違ってくるであろうから)。

予算折衝について

生徒会会計担当

予算折衝の日程が決まりましたので、お知らせします。

	4 / 18 (火)	4 / 19 (水)	4 / 20 (木)	4 / 21 (金)
3 : 00 ~ 3 : 10	演劇部			
	池田・辻			
3 : 10 ~ 3 : 30	パ研	鉄研	科学部	軟庭部
	池田・辻	尾崎・大伴	辻・大伴	河合・中須賀
3 : 30 ~ 3 : 50	水泳部	硬庭部	野球部	サッカー部
	池田・辻	尾崎・大伴	尾崎・大伴	河合・中須賀
3 : 50 ~ 4 : 10	野山	バスケ部	音楽部	陸上部
	池田・辻	尾崎・辻	池田・尾崎	河合中須賀
4 : 10 ~ 4 : 30	卓球部	剣道部	ハンド部	駒場棋院
	池田・辻	尾崎・辻	池田・尾崎	河合・中須賀
4 : 30 ~ 4 : 50			生物部	
			池田・尾崎	

凡例

部活名
生徒会担当者

- ・折衝は、各団体の代表者 2 名と生徒会の担当者 2 名で行います。
- ・各部活の代表者 2 名（部長と会計が一般的です）は、下記の時間に、遅れないように生徒会室（旧中図にあります）まで来てください。

※予定が詰まっています。絶対に遅れないようにしてください。

- ・委員会の予算申請書は本日の会食の後、明日（4 / 18）の昼までに提出してもらい、明後日（4 / 19）の 12 : 30 から折衝を行います。

※委員会の予算申請は基本的に認めますが、折衝では用途等を聞きます。

- ・この日程で予算案を決定する事を目指しますが、もし決定しなかった場合、4 / 24（月）昼休みに 2 度目の予算折衝を行います。
- ・折衝の際に資料等が必要であれば、用意して下さい。
- ・以前に予定を調査しましたが、万一都合が悪いという事があれば、3 - B 辻または 3 - C 尾崎に申し出て下さい。

参考資料 2：予算折衝の様子

折衝の様子

<部活動>

剣道部

生①：剣道部は現状でいいのですが、どうでしょう。

剣①：え、上がらないの？

生①：いくつか選択肢はある。現状維持か、それ以外か。そっちとしてはもう譲れないんでしょ？お互いにめっちゃ譲った。だから現状維持でいいと思う。あと、消耗品・備品っていうのをもう一回はつきりさせてくれない？

剣②：竹刀を削る「竹刀削り器」だとか、竹刀を長持ちさせるために使う「竹刀油」だとか、サポーターとか、たすき。

生①：それらは個々の単価はめっちゃ小さくて品目数は多いからまとめちゃったと。まとめてほしくなかったけど、まあいいや。

剣②：そういうことです。

生①：現状維持 50055 でどうですか。

剣①：50505 がいいです。

生①：450 円増やす理由を言ってください。

剣①：この前の日曜日の試合で、垂れネームの「筑波大駒場中」の「中」を違う布でつけてるんだけど、それを3年目にし始めて指摘されて、新しく買い換えたいから。

生①：それって 450 円するの？

剣①：450 円以上するけど、そこを 450 だけでいいよっていう話。

生①：まけるか。

硬式テニス部

テ①：(大会の実績、布テープの消費の早さについて語る)

生①：ボールが落ちてるのはどうよ？

テ①：中一がボール置いてったりするのはしょうがない。部員はやる気あるよ。

テ①：ボールが壊れたんだよ。昔は色ついてたのに、もう風化して錆びて焦げ茶になっちゃったんだよ。壊れちゃったんだよ。

それを直すのを部費から出すんだ？部費から。

テ②：ということは、生徒会は他の出すべきだよな。本来、生徒会はボール代出すべきだから、そこを出さないんだから、ねえ。

(結果、そのままということになる)

バスケットボール部

生①：こっちとしては、まず確認の後…

バ①：でもさ、テニス部とか減るんでしょ。テニス部が減るんだからどこかが増えないとおかしい。

生①：繰越金にいっぱい回さなくちゃいけない。

生①：他の収入がガーンと減った時、これぐらい無いと困る。

バ①：そこは開き直って繰越金リセットして0から始めない？

生①：冗談言わないで。まず6.63のボールなんだけど。

バ①：6.6にしてみいいよ。

生①：いやいや出来れば6ぐらいに…

バ①：じゃあ100円ぐらいなら減らしてやるよ。

生①：つまりバスケ部は削れということだっ！

生②：やっぱりバスケ部は多すぎるという意見があるから、8万を超えるのは何とかならないかなあ、って。

バ①：いいじゃん、部員増えるんだから。

生①：気持ち的には分かるけど…ここは削って欲しい。

バ①：でも6はさすがに…

(以下、折衝の末表の通りに)

部・野山を愛する会

生①：とりあえず説明して。

野①：なべは山の上で…

生①：ないの？

野②：あるんだけど、凹んだりして破損してて、しかも今年は中2が多くて、去年よりなべがたくさん必要。

生①：ポリタンっていうのは？

野②：白い2リットルとかの水筒みたいなので、プラスチックの。これもずっとつかってると汚れたりするし、人数多くてきつい。

生①：コンロは、壊れちゃうの？

野②：今までが3個とか4個で使ってたから、6個とか必要になっちゃうし。去年は、人数少ないからあんまもらってないんだけど、今年は人数多いから結構もらいたい。

生①：人数増えたら部費増えないの？

野②：来たり来なかったりするからとるのが難しい。

生①：予備費見たいにして積み立てればいいじゃん。

野②：壊れたりしたらうちら(中3)で買えばいいけど。

生①：ガスにしても、スノーシューズにしても、部員が増えた分だけほしいって言うこと？

野②：ガスは消耗品だね。

生①：スノーシューズって何？

参考資料 3 : 教育実習生へのアンケート

アンケートのお願い

中学生徒会

中学生徒会は、生徒と教育実習生の皆さんと交流を深められればと思い、教育実習生の皆さんへアンケートを行わせていただきます。

このアンケートは＜プロフィール＞と＜アンケート＞に分かれていて、前者はそのまま、後者は匿名で広報に掲載させていただきます。ご協力お願いします。

＜プロフィール＞ そのまま掲載させていただきます。丁寧にお書きください。

① _____
② _____ ③ _____
④ _____
⑤ _____
⑥ _____

〔記入していただく項目〕

- ① お名前・担当教科
- ② 特技
- ③ 趣味
- ④ 座右の銘
- ⑤ 筑駒生にメッセージ
- ⑥ このスペースで何か面白いことを書（描）いてください。

＜アンケート＞ こちらは匿名です。本心をお聞かせください。

- ① 筑駒や筑駒生の第一印象を教えてください。

--

- ② 中学・高校時代、どんな学生生活を送っていらっしゃいましたか。

--

- ③ 子供のころの夢・今の夢を教えてください。

--

- ④ 理想の教師像を教えてください。

--

- ⑤ 付き合っている人はいらっしゃいますか。

--

ご協力ありがとうございました。

このアンケートは5/31（水）の昼休み、50周年記念会館回収に伺います。

参考資料 4 : JRP による若手外交官との交流

2006JRP 若手外交官日本語ブラッシュアップ研修

中学・高校生との交流及び自国紹介発表会

日時：2006 年 7 月 8 日（土） 10：00～12：00

場所：筑波大学附属駒場中学高等学校 50 周年記念会館

参加中学・高校生・自治会の方：20 人前後

参加発表者：6 人（男性 4 人、女性 2 人）

- ・ミヤ・トゥ・ザータン（ミャンマー大使館 二等書記官）
- ・ジャファール・アクラミ・アバルゴイー（イラン・イスラム共和国大使館 参事官）
- ・ガーファル・ソミ・トゥトゥ（スーダン大使館 三等書記官）
- ・イウェジュオ・イノセント・アロマ（ナイジェリア大使館 二等書記官）
- ・モエ・モエ・カイン（ミャンマー大使館 一等書記官）
- ・ハッジ・ナビガ（モロッコ大使館 参事官）

参加講師：池崎、行田、木野、並木、大石

当日の流れ

9：15 京王井の頭線・駒場東大前駅集合（車の方は直接学校へ）

9：30 正門前集合～会場へ移動 会場チェック・機材チェック

10：00 開始

筑波大学附属駒場中学高等学校・小林副校長先生のご挨拶

10：05 JRP 専務理事 池崎より挨拶、講師紹介 アンケート配布

10：10 各国紹介（1 人 5 分×7 人）

全体 Q & A（15 分程度、全員の発表後）

11：00 中学・高校生による学校紹介（5～10 分）

11：10 4 つのグループに分かれて交流・ディスカッション

- ①ザータンさん ②ソミさん・アクラミさん ③ イノセントさん・カインさん
- ④ ハッジさん

11：45 アンケート記入

12：00 終了（アンケート回収）

記念撮影

※竹クラスは各自昼食をとり、その後六本木アカデミーヒルズにて研修（14：00～16：00）

参考資料 5：若手外交官との交流、当日までの流れ

外交官との交流会、今後の予定

7/05/06

グループ分け

- | | | |
|----------------------------|---------------|------------|
| ① ザータン（ミャンマー） | 中学（池田、河合、宇佐美） | 高校（安田） |
| ② ソミ（スーダン）・アクラミ（イラン） | 中学（青木、村上） | 高校（李） |
| ③ イノセント（ナイジェリア）・カイン（ミャンマー） | 中学（中須賀、辻） | 高校（笹原） |
| ④ ハッジ（モロッコ） | 中学（三文字、橋本） | 高校（西山、津野田） |

期末最終日までに、それぞれの質問事項に答えるよう、考える

7/05 期末最終日、自治会室集合：打ち合わせ（装飾について、記録について）

7/07 午後、生徒部担当、打ち合わせ、（生徒自治会、生徒会有志も手伝う）

7/08 当日 8：00 集合、飾りつけ、最終打ち合わせ

9：00 日本語サミットのメンバーと交流

10：00～12：00 外交官との自己紹介、意見交換（日本語サミットのメンバー見学）

参考：生徒からの質問事項

- ・日本語で好きな言葉は何ですか？
- ・好きな日本食は何ですか？
- ・日本の良いところと悪いところはどこだと思いますか？
- ・日本の若者をどう思いますか？
- ・日本語の流行語を知っていますか？
- ・アジアにおける日本の立場（現在と将来）はどのようなものだと思いますか？

筑波大学附属駒場中学高等学校への質問

1. 発表者各国に対するイメージを教えてください
2. 海外でどの国に行ってみたいですか
3. 発表者各国の名前は今まで聞いた事がありましたか（聞いたことがある場合、どこで聞きましたか）
4. 将来何になりたいですか
5. 外国で働くことに興味がありますか
6. どんな国で働いてみたいですか
7. 学校では何をしているときが楽しいですか
8. 学校以外では何をしているときが楽しいですか
9. 友達とどんな話をよくしますか
10. 何に興味がありますか（あなたは、まわりの友達は、同年代の人は）